第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 高大接続改革の中で、高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、各大学の個別選抜や総合型選抜等を含む大学入学者選抜全体において、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の総合的な英語力を評価することが求められている。共通テスト「外国語（英語）」は、「リーディング」形式と「リスニング」形式の問題を通して、文字や音声による試験の特徴を生かしながら、以下のように可能な限り総合的な英語力を評価する。
 - ・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する。
 - ・併せて、高等学校において、英語を「聞くこと」・「読むこと」・「話すこと [やり取り], [発表]」・「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られることを踏まえ、情報や自分の考えを適切に表現したり伝え合ったりするために、理解した情報や考えを整理したり、何をどのように取り上げるかなどを判断したりする力を重視する。
 - ・また、コミュニケーションを支える基盤となる音声や語彙、表現、文法等に関する知識や技能についても、上記の力を問うことを通して引き続き評価する。
- 「リーディング」、「リスニング」ともに、共通テストの問題のレベルは、出題範囲としている科目（「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」及び「論理・表現Ⅰ」）の目標及び内容（言語活動の例、言語の使用場面や働きの例など）等に対応したものとする。その際、多様な入学志願者の学力を適切に識別できるよう、引き続き、CEFR の概ね A1～B1 レベルを目安として問題のテキスト、使用する語彙、タスクなどを設定し、問題を作成することとする。
- 「リーディング」の表記については、現在国際的に広く使用されているアメリカ英語に加えて、場面設定によってイギリス英語を使用することもある。
- 「リスニング」の音声については、多様な話者による現代の標準的な英語を使用する。また、読み上げ回数については、1 回読みと 2 回読みの両方の問題を含む構成で実施することとする。

2 各問題の出題意図と解答結果

- ・ 第1問は、英語の特徴やきまりに関する知識・技能（特に文構造及び文法事項）に基づき、身の回りの事柄に関して平易な英語で話される短い発話を聞いて、必要な情報や、発話内容の概要や要点を把握する力を問う。日常的な内容の文を聞いて、内容が合っている選択肢（セクション A では文、セクション B ではイラスト）を選ぶ問題である。音声は2度流れる。

第1問の難易度はおおむね適切であった。問7は“water”と“waste”が聞き取れれば正解にたどり着けるため、比較的易しかったかもしれない。
- ・ 第2問は、身の回りの事柄に関して平易な英語で話される短い対話を、場面の情報とイラストを参考にしながら聞き取ることを通じて、必要な情報を把握する力を問う。日常的な短い対話を聞いて、設問に対する答えをイラストから選ぶ問題である。音声は2度流れる。

第2問の難易度もほぼ適切であった。特に問9、問10は識別力も高く今後の参考となる良問と言えよう。
- ・ 第3問は、身の回りの事柄に関して平易な英語で話される短い対話を、場面の情報を参考にしながら聞き取ることを通じて、概要や要点を目的に応じて把握する力を問う。日常的な対話を聞いて、対話内容に関する設問の答えとなる選択肢を選ぶ問題である。対話は言語の機能（例：確

認、依頼、誘い等)を軸に作られており、小問6題のうち、今回は問13と問15をイギリス英語による発音とした。また、この大問から音声は1度しか流れない。

第3問の難易度は、おおむね適切な範囲であった。問12は易しいことを想定して最初の問題としていた。文脈を与える日本語文に「女性が作った家具」とあるため①の“buy a bookshelf”が排除でき、さらに“bookshelf”以外に対話で使われている家具に関する名詞は正解③に含まれる“materials”のみであったため、正答を得やすかったかもしれない。

- 第4問Aは、必要な情報を聞き取り、図表を完成させたり、分類や並べ替えをしたりすることを通じて、話し手の意図を把握する力を問う。また、第1問の文(2回読み)・第2問の対話(2回読み)・第3問の対話(1回読み)から、長めのモノローグに移行する設問としてのつなぎの役割を果たしている。

問18～21は、2019年と2024年において学生が従事していたアルバイトの業種を比較する話を聞いて、表を完成させる問題であった。難易度は適切であったと言えよう。

問22～25は、食料品店に運ばれる食材の配達スケジュールに関する話を聞いて、表を完成させる問題であった。難易度は適切な範囲であった。説明の順序(例：野菜は月曜日と木曜日に)が表における提示順序(例：木曜日には乳製品と野菜が)と逆であったため、認知負荷が高まった可能性がある。認知負荷はどの習熟度レベルにも均等にかかるため、識別力に関してはマイナスに働いたかもしれない。今後ともこの点は注視していく必要がある。

第4問Bは、複数の情報を聞き、最も条件に合う選択肢の一つを選ぶことを通じて、状況・条件に基づき比較して判断する力を問う。四人の話者は、アメリカ英語、カナダ英語、イギリス英語、日本語母語話者各一名であった。

企業研修先を決めるために、四社による説明を聞き、考えている条件に最も合う会社を選ぶというものであった。この種の問題に関しては受験者の対策が整っているように感じられる。

- 第5問は、身近な話題や知識のある社会的な話題に関する講義を聞き、①メモを取ることを通じて概要や要点を捉える力、②聞き取った情報を他者と共有したり、話し合ったりする力、③聞き取った情報と問題文中に示されたグラフ資料を統合的に処理する力を問う。

トピックは“passive cooling”(自然と都市計画を調和させ都市の温暖化を防ぐこと)で、その特性、並びに緑や通り・建物の設計がもたらす効用に関する講義を聞く形式であった。難易度が高い大問であるが、おおむね適切な範囲であったと考える。

問33は、①グラフの数値が高いほど温度が高いことを示しているが、これはグラフのタイトル“cooling scores”から連想されるものと逆になっていること、②グラフのデータが「緑が増えても常に温度が下がるとは限らない」というやや意外な事実を示していることにより、比較的難易度は高かった。どちらの点も「JoeとMayの会話」の中で言及されているが、それでも受験者にとって難しかったかもしれない。

- 第6問Aは、身近な話題やなじみのある社会的な話題に関する会話や議論を聞き、話者の発話の要点を選ぶことを通じて、必要な情報を把握する力や、それらの情報を統合して要点を整理し、判断する力を問う。

今回は夜遅くまで試験勉強する際の夜食についての二人の会話を聞き、会話の主旨を判断させた。問34は適切な難易度であったが、問35は、夜食というトピックが受験者になじみ深いものであり、また会話の流れが分かりやすかったため、比較的易しかったと考えられる。

第6問Bは、身近な話題やなじみのある社会的な話題に関する会話や議論を聞き、それぞれの話者の立場を理解し、更に特定の話者の意見を支持する図表データを選ぶことを通じて、必要な情報を把握・統合し判断する力を問う。

スマートフォンの使用時間を減らすべきかに関する三人の意見交換を聞き、話者の立場を判断させた。従来話者は四人であったが、人数減により一人分の発話量が増え、各話者の立場のより詳しい描写が可能になるため、今回は三人とした。また、これまでと同様、男女の声の違い、異なる種類の英語、話者が互いの名前を呼び合うことにより登場人物が区別できるようにした。

問 36 はスマートフォンの使用時間を減らすことに決めた話者の人数を問うた。昨年度の追・再試験では条件に合う話者の名前を問うたが、どちらの形式にも一長一短があり、作成された会話の特性に応じてどちらかの形式にすべきであると考えた。

会話の冒頭に一人の話者が「スマートフォンの使用時間を減らそうと思っている」と切り出す。この話者は他の話者の意見を聞いた後、「もう少し考えてみることにする」と意見を変えた。この部分を聞き取り、「スマートフォンの使用時間を減らすかどうかは未定」と判断するのが困難であったかもしれない。

また、問 37 は適切な難易度であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

今回の共通テストは、平成 30 年告示の学習指導要領に基づく教育課程の下で実施される初めての試験であった。これを踏まえ、英語（リスニング）では、主に第 5 問を見直した。今年度は「状況」に加えて「活動 1」～「活動 3」が示され、講義を聞いてワークシートを完成させ（活動 1）、学生同士で講義内容を確認し（活動 2）、講義の内容に関わる図を基にした学生同士の会話を聞き、その内容と講義内容に関する問いに答える（活動 3）形式であった。

この新傾向問題に関しては、高等学校教科担当教員からは、「教科横断的な思考を求められる問題」という評価を受けた。さらに、教育研究団体からは、「講義の内容を踏まえ、複数人の意見を聞き取り、図表を読み取り、選択肢の内容を読み取らなければならない。（中略）このような行為はまさに授業の前後で行われていることでもある。これまでの学校生活で得てきた経験の差が強く影響する設問であり、高等学校での授業の在り方等にも影響を与えようという観点で良問という評価ができる」と称賛された。問題の内容形式及び、高校英語教育への波及効果に関しておおむね良い評価が得られた。今後とも、方向性は維持した上で、第 5 問の更なる改良に努めたい。

本テスト全般について、教育研究団体からは、「様々な場面や状況を設定し、その中で知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっており、また、外国語に関する様々な知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける、という学習指導要領における目標を反映した出題となっている」との評価を受けた。

また、高等学校教科担当教員からは、今回の共通テストは新学習指導要領に基づく初めての試験であったが、学習指導要領の「趣旨を踏まえて各問題が作成されている」との評価を受けた。具体的には「必要な情報を聞き取って答える知識・技能を問う問題に加え、まとまりのある内容の話を聞き取って、概要や要点を捉えるなど、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる内容がバランス良く出題されている」と評価された。さらに、多様な話者による英語が使用されていることも「グローバル社会を見据えたリスニング試験である」と論評いただいた。

今後も、多様な英語の音声を用い、思考力・判断力・表現力等を必要とする、話者の意図、含意と文脈、内容理解を問うような問題、受験者が既存の知識や体験を集結させながら解く問題、身近な暮らしや社会に関わる題材で、日常生活で用いられる自然な英語を体現した問題の作成を続けていきたい。

一方で、出題に関して懸念される点も幾つか指摘を受けた。以下に主なものとそれに対する問題作成部会としての見解を述べる。

- ・ 第2問の問11に関して、「雨が降るかもしれないので、フェンスのそばに置いてもいいか」という発言はやや不自然にも思われる。「屋根の下 (under the roof)」等の表現でも問題の趣旨は変わらなかったのではないか」という指摘を受けた。自然な文脈とする努力は今後も一層進めていきたい。
- ・ 第4問の問22～25（食材の配達スケジュールを聞き取る問題）に関して、「一部の食材は曜日順に発話されず、情報を整理しながら聞き取った上で、思考力、判断力を発揮することが求められた」という指摘があった。この点に関しては既に上述したが、英語力とは直接関係しない認知的負荷があったかもしれない。この点は今後も注意深く検討していく。
- ・ 第5問の問32（講義の要約を準備する新学習指導要領に基づく新傾向問題）であったが、「聞く力を測っている点は良いが、講義全体の主旨を問う問題が、問27と問32で重複しているように見受けられた」という指摘を受けた。この点は今後の問題作成において意識していきたい。

4 ま と め

本テストは、4技能のバランスを意識し、場面設定などを日本語で表記することで、測る力を「聞く力」に集約している。また、様々なコミュニケーションの場面や状況を設定し、学習指導要領の方針を汲んだものとした。英語の多様化についても一定程度実現化できたと考える。こうした方向性については、今後も継続していきたい。

共通テストの高等学校の授業への波及効果が大きいことは、上記の教育研究団体のコメントからも明らかである。高等学校において、生徒各自が、「読んだり、聞いたりしたことを基に自らの考えを述べたり、互いに意見を伝え合ったりするような豊かなコミュニケーション活動を通じ、主体的・対話的で深い学びを実現する指導を充実させたい」という高等学校教科担当教員の見解は、問題作成部会も共有するところである。

問題作成部会としては、共通テストが、「情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」の育成につながる波及効果があるものとなるよう、今後とも尽力していきたい。